

令和4年度 大学教育再生戦略推進費  
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」  
申請書

代表校名 (連携校名)	埼玉医科大学 (群馬大学) 計2大学
事業名	埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

## 事業の構想等

### 1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

#### (1) 全体構想

##### ①事業の概要等

埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、医師不足は深刻である。特に、北部、利根、秩父医療圏では、患者の群馬県への流出も多く、この地域の医療需給に関する問題は、埼玉県のみならず群馬県の医療提供体制を考える上でも重要である。このような背景を持つ両県の医育機関である埼玉医科大学と群馬大学が、現在のみならず将来を見据えて、地域を基軸として地域医療の現状を学ぶこと、将来地域医療の中で必要となるがん医療、難病医療、遺伝医療などに入学早期から触れること、地域の医療機関における体験実習を拡充すること、感染症医療、コモンディジーズの診療を含む総合診療に関する教育を推進することを目指し、両大学の学生が参加する利根川プログラムをはじめとした5つの教育プログラムを開発し、地域で必要な知識・技能・態度・価値観を共有する地域枠医学生への育成に取り組み、将来の地域医療に貢献できる医療人を養成する。

##### ②大学の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

埼玉医科大学の設立の趣旨は福祉社会の実現に寄与できる、**人類愛に燃え、豊かな人間性と幅広い知性に裏付けられた、高度な医学知識と医療技術を身につけた優れた臨床医および医学研究者の養成**にある。また、埼玉医科大学は地域医療を担う第一線病院に原点があり、**患者中心の医療を実践できる「すぐれた医療人」を育成**することを教育目標に掲げている。医学の進歩や高齢時代の進展に伴う疾病構造、医療ニーズの変化により、在宅医療・在宅福祉へ積極的に参加する医療の担い手としての医師への期待が高まっており、医育機関としてはかかる地域医療を担う人材を育てることを重視してきた。医師は21世紀の保健・医療・福祉の中心的役割を果たさなければならず、**そのためには、人間に対する深い愛情と生命の尊厳に対し畏敬の念を持ち、医療に対する社会的ニーズに的確に応える行動する医師の養成が必要**である。本学が位置する埼玉県は人口10万人あたり医師数が全国でも少なく、さらに今後高齢化が全国でも最も急速に進むことが予測されている。平成10年度入学生から地域枠医学生を受入れ、これまでも全学で地域医療を志向する医師の育成に努めてきた。さらに、本学では、埼玉県西部に大学病院、総合医療センター、国際医療センターと3つの病院を持ち、総合母子周産期医療センターや高度救急救命センター、難病センターなど地域医療の第一線を担う医療機関として、地域のニーズに応え、多くの地域に根付いた専門医を輩出してきた。

このように、埼玉医科大学では社会から求められる医師を卒前卒後を通して養成することを目指しており、本事業が目指している「大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため」「地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点」となることは、大学の教育理念・使命とも合致している。

群馬大学は医学部、共同教育学部、理工学部、情報学部を有する国立の総合大学であり、「北関東を代表する総合大学として、有為な人材を育成するとともに、真理と平和を希求し、深遠な学理とその応用を考究し、世界の繁栄と人類の福祉に貢献すること」を使命としている。本学医学部医学科では、人材育成の理念を「医の科学 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の探求とそれらの統合による、医学の研究と教育の推進、並びに**医学と医療をリードする人材の育成**」としておりその目的は下記の通りである。

- (1) 高い倫理観を持って患者中心の医療を実践し、医療チームのスタッフから信頼される医師
  - (2) 広い医学知識と高い臨床能力を持ち、進歩する医学知識・医療技術を、生涯にわたり獲得し続けることのできる医師
  - (3) 高度な研究を推進し、その成果を社会に還元できる基礎医学、臨床医学及び社会医学の研究者及び教育者
  - (4) 広い視野を持ち、医療政策の立案・実施に携わる医療行政担当者
- 以上より本事業の目的と一致する物である。

### ③新規性・独創性

ポストコロナ時代の医療人として育成を目指す人材像として、「**地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師**」「**総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これから必要となる臨床能力を身につけている医師**」を示し、その達成を目指し、①埼玉・群馬の医療、②将来地域で求められる医療、③地域医療と総合診療・プライマリケア、④人の暮らしを支える仕組みの理解、⑤地域医療実習の拡充、⑥感染症による危機管理への対応力の育成の**6つの視点**に基づき、カリキュラムを新規開発・拡充し、地域医療人材の養成を目指した取組はこれまでに無い新しい取組である。特に、現在不足している領域や分野である総合診療や小児科、産婦人科、救急医療、感染症医療に従事する医師に限定せず、国民のニーズでもある高度先端医療に従事することを目指す医師においても地域医療を理解し、それらの医療を地域でも継続してフォローできる力やマインドを身につけている地域医療を担う医師を養成する方針も特色である。

一方で、教育プログラム全体として、**埼玉・群馬の県境地域**における医師偏在、診療科偏在、患者の県境を越えての受診などの医療の問題や地域を理解することを基軸として、総合診療、感染症などの臨床医学、社会医学、教養教育、データサイエンスなども含む様々な領域を含むカリキュラムの開発を目指している点も他にはない。

埼玉県は、県北の高齢化、人口減少地域から政令市であるさいたま市、中核市の越谷市、川口市など人口が増加している地域まで、それぞれが全く異なる地域社会の課題を持っているという特徴があり、このような特徴をもつ埼玉県の医療の現状と取組に関する映像教材を作成し、入学早期から学習することで、地域医療の現状と課題、解決方法について考えることを通して、地域医療を身近に感じ、**自らに求められていることをより具体的に自覚できる**という点がこれまでの人材養成の取組とは大きく異なっている。

埼玉医科大学と群馬大学は教材開発を協働して実施するだけでなく、群馬大学中心の2つのプログラムにおいては、**両大学の学生が協働学習**することを計画しており、大学を超えて地域・地域医療に対するマインドを育てる新しいプログラムである。

感染症、遠隔医療に関する教育プログラムは、昨今の新型コロナウイルス感染症をテーマに社会的な背景から臨床現場での感染者への対応に至る、講義、演習、実践的な実習をとおして、段階的に学びを深める教育プログラムとして新しい。

埼玉医科大学医学部では、従来から地域医療教育の中で取り組んで来た「人の暮らしを支える」視点を身につけるための**地域基盤型専門職連携教育**の教育内容について、主にその内容が配置されている1～4年次の「地域医療とチーム医療」ユニットの講義を、今回拡充する教育内容を含めてすべて収録し、群馬大学でも活用可能な教材として開発し、他大学に普及することも目標としてする。

これらの教育コンテンツの一部を近隣の大学や埼玉県出身者の医学生の学習教材とすることで、埼玉県の地域医療に関心をもち、埼玉県で働く研修医が増加し、将来的には埼玉・群馬の県境地域の医師不足を解消することにつながるといった効果が期待される。

#### ④達成目標・アウトプット・アウトカム（評価指標）

（達成目標）

地域への理解と課題の発見解決に対する意欲を持ち、地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師、小児科・産婦人科・救急医療・感染症科など診療科偏在を考慮し、総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これから必要となる臨床能力を身につけている医師を養成することを通して、広く地域医療を志す卒業生を増やし、さらに、現在喫緊の課題となっている埼玉県群馬県の県境の医師不足地域で勤務する医師、小児科・産婦人科・救急医療を専攻する医師の増加を目指している。これらが最終的には、急激に高齢化が進む両県民の健康と医療を支え、健康長寿の実現に資すると考えている。また、これらの取り組みをホームページ等を通して広く県民に周知することを通して、地域医療の課題に関心を持ち、地域医療を志す高校生を増やすことに繋げる。

（アウトプットと評価指標）

- ・教育プログラム・コース等の開設数と開設時期  
開設する教育プログラム数：令和5年度から段階的に開設し、令和6年度までには、開設予定の5つのプログラムすべてを開設する。
- ・本事業で構築した教育プログラム等を履修した学生数（うち地域枠学生数）  
教育プログラムの履修修了者数の増加：令和6年度60人（うち地域枠40人）、令和10年度600人（うち地域枠200名）、令和15年度2,000人（うち地域枠600人）  
教育プログラムを履修する延べ人数の増加：令和6年度1,800人（うち地域枠300人）、令和10年度7,000人（うち地域枠1,400名）、令和15年度14,000人（うち地域枠2,700名）
- ・本事業で構築した教育プログラムにおいて連携する実習受入機関の延べ数  
在宅医療実習受け入れ施設数を埼玉県内で50施設確保する。  
利根川プログラムにおける実習協力医療施設を5施設確保する。  
在宅医療実習受け入れ施設の延べ数の増加：令和6年130施設、令和10年650施設
- ・オンデマンド教材等の教育コンテンツの作成数  
映像コンテンツを、令和6年度までに延べ30コンテンツ（600分）、令和10年度までに延べ60コンテンツ（1,200分）

（アウトカムと評価指標）

- ・地域枠・地域医療を志す学生の増加  
地域枠への入学希望者（地域枠選抜試験受験者数）の増加  
卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加
- ・教育プログラム・コース等を修了後の人材のキャリア  
産婦人科、小児科、救急科、総合診療科を専門研修で専攻する卒業生の延べ人数の増加  
地域枠学生の医師不足地域（指定地域）医療機関での延べ勤務数の増加  
地域枠奨学生の県内定着数の増加
- ・事業成果の発信状況  
専用ウェブサイトにおいて、取り組みの進捗状況、学生の学びに関する情報、研究成果、一部教育コンテンツ（動画）を公開  
事業報告、FDを目的として、教員、ステイクホルダーである県民、地域医療を志す高校生を対象としたシンポジウムを年に1回開催し、毎回100人以上の参加を目指す。  
本事業の成果を毎年医学教育学会で報告する。

（2）教育プログラム・コース → 【様式2】

## 2. 事業の実現可能性

### (1) 運営体制

#### ①事業実施体制

両大学、両県、地域医療支援センター、医師不足地域医療機関等の連携各機関については、年に1回、すべての連携組織の代表者が参加する「埼玉・群馬 大学連携推進会議（連携推進会議）」で進捗の確認、方針の修正を行う。また、それぞれのプログラム責任者や担当者レベルでは2か月に1回「運営連絡会議」を開催し、事業を進める。

埼玉医科大学では、事業を運営する組織として、医学部卒前教育委員会の専門委員会として「ポストコロナ時代の人材養成ワーキンググループ」を設置し、各プログラム責任者が参画し企画・運営を担当する。これまで地域枠学生の教育や地域医療教育の企画を担当してきた医学教育センター医学部領域卒前医学教育部門地域医学推進室が、本事業の実働組織としてカリキュラムの運営を担当する。群馬大学では、医学科教務委員会の専門委員会として「ポストコロナ時代の人材養成ワーキンググループ」を設置し、埼玉医科大学と協力して企画・運営を担当する。

#### ②自己評価体制

各大学で実施する事業については、両大学ともに医学部自己点検・評価委員会に当該年度の事業報告を行い、点検・評価を行う。埼玉医科大学では医学部のカリキュラムの運営に責任を持つ卒前教育委員会の審議を経て、次年度の事業計画に反映する。群馬大学においても同様に、医学科教務委員会の審議を経て、次年度の事業計画に反映する。

中間年となる令和6年度以降、ステークホルダーであるそれぞれの県民や県内医療機関の長、学外の地域医療教育の専門家等を含む「埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会」を開催し、外部評価を行う。その評価結果を踏まえて「連携推進会議」において事業計画の見直しを行うなど方針を検討する。外部評価結果は、新たに本事業のために立ち上げるホームページにおいて公開し、広くステークホルダーからの意見を受けられる様にする。

#### ③連携体制（連携校との連携体制や役割分担 等）

連携校である埼玉医科大学と群馬大学は、関東北西部で隣接した2つの県にある唯一の医育機関として、お互いの県の出身者を受け入れており、また県境地域の医師不足という課題や将来のキャリアデザインについて県を超えて連携することの意義を共有している。医師不足地域である埼玉県、群馬県の県境地域における、現在から将来にわたる住民の健康や医療を支える医療人の育成のためにお互いの地域医療の現状と課題やそこで将来求められる医療について、学部教育の段階から共通理解をすることを目指して連携する。

埼玉医科大学は医学部の使命を踏まえ、従来から医学部医学科1年～4年次の全学生を対象に、地域基盤型専門職連携教育を中心とした地域医療の理解を深めるための教育として「地域医療とチーム医療」ユニット（科目）を配置し、地域医療教育を実施してきた。大学関連3病院は救急医療から母子周産期医療、精神医療、感染症医療を含む地域医療の最後の砦として、がん医療、ゲノム医療、難病医療などの高度先進医療以外にも西部を中心とした県内の地域医療（二次～三次医療）を担っており、4年次1月から始まる臨床実習ではこの3病院での実習を通して地域医療に触れる経験をしている。その他、学校法人としては「医療と福祉の理想郷」計画にも取り組んでおり、関連法人では、障害者施設の運営や市町村と連携しての在宅医療連携拠点事業、老人福祉センター運営事業等も担っている。群馬大学は、群馬県地域医療支援センターを学内に配置し、地域枠学生の教育、キャリア支援に取り組み、多くの医師を輩出してきた。また群馬大学には重粒子線癌治療や災害拠点病院といった特色を持つ群馬大学附属病院があり、県内の地域医療を支えている。両大学は地域枠学生を受け入れており、これらの学生への教育、また在学生全員に対する地域医療教育のノウハウを蓄積してきた。

このような両大学の強みを活かし、埼玉医科大学は埼玉県、群馬大学は群馬県の医療に関する現状と今後地域で必要となる医療に関する動画を、それぞれの都道府県の視点から協力して作成し、お互い不足する部分を補完する。埼玉医大は、全学生を対象としたプログラムと地域枠中心のプログラムを開発し、柔軟な正規のカリキュラムの中に新規カリキュラムを配置する。地域枠中心にプログラムを構築する群馬大学の科目と同時開催による合同授業を開講し、両大学の学生が入学早期から埼玉・群馬の地域医療について考える機会を設ける。

また、総合診療・プライマリケアの視点からの演習を中心とした教育について、両大学の関連領域担当者が新たな教育コンテンツの開発に取り組む。

#### ④連携体制（都道府県、医療機関等との連携体制や連携の特色 等）

埼玉県、群馬県ともに地域枠奨学金受給医学生の教育やキャリア形成に関しては、従来からそれぞれ県の期待や意向を踏まえて実施してきた。特に埼玉県は全国の中でも医師不足が最も深刻な都道府県であり、**医師偏在地域である県北部、利根、秩父医療圏における将来の医療の充実を目指した取り組みを推進することは、埼玉県にとっても重要な課題**となっている。こういった課題解決に、大学が、都道府県、特定地域医療機関、県内職能団体等の専門家と共に取り組む。

埼玉県の地域医療を理解するための映像コンテンツを作成する際には、県には、コンテンツ作成の企画段階から協働していただき、**ステークホルダーとしての役割も持ちつつ県民目線で将来の医師に理解して欲しい内容を盛り込んだコンテンツの作成**を目指している。地域診断を行う教育としては、埼玉県の持つ各地域の統計資料を一体的に学生に提供できるようなプラットフォームを作成し、学生のみならず多くの医療人が有効に活用することができるようにする。また、両大学には福祉系学部がないことから地域福祉を中心とした教育コンテンツの作成の際には、県内他大学の専門家の協力も得て進める。

**特定地域の医療機関**は、これまで埼玉医科大学の学生実習を受け入れているが、今後さらに群馬県の県境の地域医療機関にも連携を拡げ、**埼玉医科大学、群馬大学がシームレスに地域医療を学ぶプログラムを構築**することができる。連携する医療機関には学生実習の受入を更に充実していただくにあたり、**学生の学びを深めるための学習環境の整備**や指導教員のFDに連携して取り組み、教育機関として**卒前卒後教育をシームレスに繋いで行く事**を目指す。**地域枠学生は将来の自らのキャリアを具体的にイメージする機会を卒前の段階から繰り返し経験することができる事も最大のメリット**である。これらの連携を通して、県や地域医療支援センターが大学と連携して実施しているキャリア形成プログラムにも情報を還元し、地域枠学生の卒後教育の充実に資することができる。

#### (2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

##### ①取組の継続に関する具体的な構想

埼玉医科大学、群馬大学ともに、補助期間内の令和6年度までを目処に教育コンテンツの開発や両大学でコンテンツを共有するための配信システムの導入、ホームページの新規作成を行う。令和8年度までに、埼玉医科大学では学内および学外との連携のためのIT環境の整備を行うとともに、連携医療機関における学生の学修環境の拡充と地域枠学生を中心としたキャリアのフォローアップの仕組みの構築を行う。また、連携や実際の教育を行うための人的資源についてはカリキュラムが軌道に乗ってきた段階で徐々に減員し、補助期間終了後は、全て正規科目として、大学内の資金による運用を可能とする。

##### ②事業成果の普及に関する計画

取り組みに関しては、定期的に成果を報告するための**報告会・シンポジウム**を開催するほか、**ホームページ**を新たに立ち上げ、情報発信を行う。一部教育コンテンツやシンポジウムの映像を、ホームページ上での公開を視野に入れて作成し、医師を目指す高校生にも視聴して貰える様にする。取り組みの成果を測る方法を両大学で検討し、その成果を評価する研究にも取り組み、医学教育学会、プライマリケア連合学会、公衆衛生学会などの関連学会において、人材養成の取り組み成果を発表する。**成果報告書・ニュースレター**を発刊し、全国医学部、県内教育機関、医療機関に配布する他、埼玉医科大学で発刊している医学教育センターニュースで定期的に取り組みを紹介する。また、今回作成する映像コンテンツは埼玉県、群馬県の医療を理解することを目指したものが多いため、埼玉県出身で県外大学に在籍する埼玉県医師育成奨学金（埼玉県出身者奨学金）貸与者にも受講を勧め、卒後の県内地域医療への貢献推進に役立てることを検討する。

### 3. 実施計画

#### (1) 年度別の計画

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①10月 連携協定締結のため第1回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>②9、11、1、3月 事業運営のための運営連絡会議を開催</li> <li>③10月 令和5年度開講科目のための開講準備と動画コンテンツの作成</li> <li>④1月 授業収録システム、配信システムの設備の導入</li> <li>⑤1～3月 令和5年度開始予定のプログラムの試行</li> <li>⑥2月 事業成果の広報（新規ホームページ作成、ニューズレター発刊）</li> <li>⑦3月 令和4年度「埼玉・群馬の未来医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4～3月 令和5年度開始予定のプログラムの開講（一部施行）と運営</li> <li>②4月 令和6年度開講科目のための開講準備と動画コンテンツの作成</li> <li>③4、6、8、10、12、2月 事業運営のための運営連絡会議を開催</li> <li>④4～3月 事業成果の広報（ホームページの維持管理・ニューズレターの発刊等）</li> <li>⑤10月 大学間及び学外施設との連携のためのIT環境の整備</li> <li>⑥2月 第2回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>⑦2月 令和5年度「埼玉・群馬の未来医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4～3月 令和6年度教育プログラムの運営と動画コンテンツの作成</li> <li>②4月 令和7年度開講科目のための開講準備と動画コンテンツの見直し</li> <li>③4、6、8、10、12、2月 事業運営のための運営連絡会議を開催</li> <li>④4～3月 事業成果の広報（ホームページの維持管理・ニューズレターの発刊・中間報告書の作成等）</li> <li>⑤10月 特定地域医療機関の教育環境の整備</li> <li>⑥10月 大学間及び学外施設との連携のためのIT環境の整備</li> <li>⑦1月 令和6年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催</li> <li>⑧2月 第3回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>⑨2月 令和6年度「埼玉・群馬の未来の医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4～3月 令和7年度教育プログラムの運営と動画コンテンツの作成・見直し</li> <li>②4～3月 事業成果の広報（ホームページの維持管理・ニューズレターの発刊等）</li> <li>③4、6、8、10、12、2月 事業の運営方針を検討するため運営連絡会議を開催</li> <li>④10月 特定地域医療機関の教育環境の整備</li> <li>⑤10月 大学間及び学外施設との連携のためのIT環境の整備</li> <li>⑥1月 令和7年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催</li> <li>⑦2月 第4回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>⑧2月 令和7年度「埼玉・群馬の未来医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4～3月 令和8年度教育プログラムの運営と動画コンテンツの作成・見直し</li> <li>②4～3月 事業成果の広報（ホームページの維持管理・ニューズレターの発刊等）</li> <li>③4、6、8、10、12、2月 事業の運営方針を検討するため運営連絡会議を開催</li> <li>④10月 特定地域医療機関の教育環境の整備</li> <li>⑤10月 大学間及び学外施設との連携のためのIT環境の整備</li> <li>⑥1月 令和8年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催</li> <li>⑦2月 第5回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>⑧2月 令和8年度「埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>
令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4～3月 令和9年度教育プログラムの運営と動画コンテンツの見直し</li> <li>②4、6、8、10、12、2月 事業の運営方針を検討するため運営連絡会議を開催</li> <li>③4～3月 事業成果の広報（ホームページの維持管理・ニューズレターの発刊等）</li> <li>④1月 令和9年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催</li> <li>⑤2月 第6回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>⑥2月 令和9年度「埼玉・群馬の未来医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>
令和10年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4～3月 令和9年度教育プログラムの運営と動画コンテンツの見直し</li> <li>②4、6、8、10、12、2月 事業の運営方針を検討するため運営連絡会議を開催</li> <li>③4～3月 事業成果の広報（ホームページの維持管理・ニューズレターの発刊、報告書作成等）</li> <li>④1月 令和10年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会を開催</li> <li>⑤2月 第7回埼玉・群馬大学連携推進会議を開催</li> <li>⑥2月 令和10年度「埼玉・群馬の未来医療人育成シンポジウム」開催</li> </ul>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	埼玉医科大学								
教育プログラム・コース名	地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成プログラム								
取組む分野	地域医療、総合診療、公衆衛生、社会福祉								
対象者	医学部生（地域枠学生含む全学生）								
対象年次	1年次～6年次								
養成すべき人材像	社会のニーズを的確に把握し、患者中心の医療を実践し、社会に貢献することを目指し、誇りを持って自己研鑽を続ける人材								
科目等詳細	<p>&lt;講座型科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域医療とチーム医療ユニット</u>（必修、1年次28時間、2年次27時間） 1年次には将来地域医療に従事する医師が理解しておくべき、難病医療、ゲノム医療、がん治療、救急医療、周産期母子医療などの地域住民が利用する医療や地域住民の暮らしを支える医療に対する学修意欲を高め、地域医療マインドを培うことを目指して、今後群馬大学と共同開発予定の医師不足地域である群馬県と埼玉県との県境地域を題材とした動画教材の視聴や<b>群馬大学学生との合同授業</b>を通して学ぶ。2年次には、人の暮らしを支える仕組の理解を深めることを目指し、地域福祉、生活環境、住環境に関する一部動画教材を用いた演習を通して学ぶ。</li> <li>・<u>CCstep1特別演習</u>（必修、50時間、4、5年次） プライマリケアを実践するための力を身につけるため、コモンディジーズに関する症候鑑別及び多疾患併存（multimorbidity）をテーマとしたオンデマンド教材を用いた演習を行う。</li> </ul> <p>&lt;実習型科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>臨床入門実習</u>（必修、56時間、1年次） 地域におけるプライマリケア・在宅医療に関しての理解を深め、地域医療に従事する意欲を早期から持たせるため、埼玉県内の在宅医療機関において1日間の早期体験実習を行う。</li> <li>・<u>導入クリニカル・クラークシップ1-1</u>（必修、109時間、3年生） 将来少ない医療資源を有効に活用し、患者安全管理に責任を持てる力を身につけるため、医学部、保健医療学部の2学部5学科合同の医療安全管理に関する多職種連携合同演習を実施する。</li> <li>・<u>導入クリニカル・クラークシップ2-1</u>（必修、163.5時間、4年生） 環境がひとの暮らしに与える影響を理解し、地域で生活する患者のQOLの向上を目指した医療を実践する力を身につけることを目指して、生活環境デザイン、病院環境に関する動画講義を用いた演習を行う。</li> <li>・<u>CCstep3指定学外施設実習</u>（必修、140時間、6年次） 地域医療の実践現場で地域医療の課題を発見し解決する力や健康増進と予防医学を実践する力を身につけることを目指して、事前に地域を深く理解するための地域診断を行った上で、実際に埼玉県内の医療機関において4週間実習を行う。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>課外学習プログラム総合診療とプライマリケア</u>（自由選択：地域枠学生（3～6年次）、その他学生自由選択、1～6年）</li> </ul>								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	全学生に対して地域医療マインドを培う事を目指した教育プログラムを、将来地域で必要となる医療の理解、医師不足地域を基軸とした地域医療の理解、在宅医療の理解、地域診断手法を身につけることを目指した教育に大幅に拡充するものである。特に、コモンディジーズの臨床推論や地域で必要となる医療の理解、医師不足地域を基軸とした地域医療の理解に関する教育としては、今後作成予定のオンデマンド教材を配信するなど遠隔での受講を可能とする。								
指導体制	埼玉医科大学医学教育センター医学部領域卒前医学教育部門地域医学推進室員である教員を中心に各ユニットのユニットディレクター、ユニットディレクター補佐が担当								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		130	130	130	130	130	130	780
	2年次			130	130	130	130	130	650
	3年次		130	130	130	130	130	130	780
	4年次			130	130	130	130	130	650
	5年次			130	130	130	130	130	650
	6年次			130	130	130	130	130	650
	計	0	260	780	780	780	780	780	4,160

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	埼玉医科大学								
教育プログラム・コース名	ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成プログラム								
取組む分野	感染症、地域医療、公衆衛生								
対象者	医学部生（地域枠学生及びその他学生）								
対象年次	1年次、3～5年次								
養成すべき人材像	ポストコロナ時代における新興感染症に対応するスキルとマインドを持った医師								
科目等詳細	<p>&lt;講座型科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療とチーム医療（必修：27時間、3年次） 新型コロナウイルスの流行を通して地域における健康危機管理、行政の取り組み、感染症のデータサイエンス、医療ネットワークシステム、フレイル、アドバンス・ケア・プランニング、緩和医療などの地域医療の機能と医師の役割を理解し、ポストコロナ時代の地域医療に必要な知識を身につける。</li> </ul> <p>&lt;実習型科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床推論（必修：26時間、1年次） 地域における感染症流行時に求められる医療と院内感染対策の現状を動画で学び、さらに身近な感染症流行の事例の解決をグループワークで行うことを通して、感染症予防対策や個人の予防行動の必要性を理解する。</li> <li>・CCstep1総合診療内科実習（必修、70時間、4、5年次） 臨床現場に出て自立して感染症予防行動を取れ、さらに自ら感染症診療に携わることができるようになるために、シナリオベースの感染症対応の実習としてPPEの着脱、シミュレータを用いた検体採取ならびに、新興感染症流行時に求められる遠隔医療面接をはじめとする遠隔診療の実習を一体的に行う。</li> </ul>								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	1年、3年～5年次に段階的に学修進度に併せて演習、講義、実習を配置し、入学早期に課題解決に対する姿勢や方法、動機付けを現場の感染症医療の動画の視聴とシナリオベースの課題解決演習を通して実施する。さらに、従来からの基礎医学（生体防御、感染・免疫）から臨床医学（感染症）への感染症に関する知識の理解を踏まえて、地域の感染症予防としての行政経験者による講義（一部オンデマンド）と実際の地域の感染症GISデータを用いたデータサイエンス演習を計画していることも新規である。実際に感染症が地域で発症した際の初期診療についての統合的なシナリオベースの実習も獨創的である。								
指導体制	埼玉医科大学医学教育センター医学部領域卒前医学教育部門地域医学推進室員を中心に学内感染症学、臨床検査医学、地域医療学、総合診療内科学、医学教育センターの教員が指導にあたる。								
開始時期	令和5年5月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		130	130	130	130	130	130	780
	2年次								0
	3年次			130	130	130	130	130	650
	4年次		40	130	130	130	130	130	690
	5年次			130	130	130	130	130	650
	6年次								0
	計	0	170	520	520	520	520	520	2,770

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	埼玉医科大学								
教育プログラム・コース名	地域への愛着を形成する埼玉県地域医療プログラム								
取組む分野	総合診療、地域医療								
対象者	医学部（地域枠学生及び地域医療に関心のある学生）								
対象年次	1、2、6年次								
養成すべき人材像	地域の課題を発見し、その課題解決に取り組むための技術を身につけ、埼玉県に対する愛着を持って地域医療に貢献する意欲を持った人材								
科目等詳細	<p>&lt;講座型科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合診療とプライマリケア（選択必修：地域枠学生必修、その他選択、39時間、2年次） 総合診療とプライマリケアの考え方、地域医療と高齢化、総合診療は密接に関連しており、総合診療の能力を身につけていることが地域で働くためには重要であることを理解することを目指して、学内外のプライマリケアの実践家を中心とした教員からの講義、演習を行う。</li> <li>・地域医学・医療学入門（選択必修：地域枠学生必修、その他選択、39時間、1年次または2年次） 地域を深く理解するための手法のひとつとして地域診断のスキルを身につけることを目指し、自らの出身地、埼玉県の医師不足地域について、模擬的に地域診断を体験する。</li> </ul> <p>&lt;実習型科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CCstep3指定学外施設実習：指定地域医療機関実習（地域枠学生必修、140時間、6年次） 埼玉県の医師不足地域における地域医療の実践現場で地域医療の課題を発見し解決する力や健康増進と予防医学を実践する力を身につけることを目指して、事前に地域を深く理解するための地域診断を行った上で、実際に埼玉県内の医療機関において4週間実習を行う。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外学習プログラム埼玉の医療（自由選択：地域枠学生（1年次必修、2～6年次）、その他学生（1～6年次））</li> <li>・課外学習プログラム：県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）（自由選択：地域枠学生（1～3年次で1回は選択する）、地域医療に関心のある学生（1～3年次））<b>群馬大学との合同演習</b></li> </ul>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	地域を基盤として地域を理解するための手法について1、2年生で学び、地域やそこで暮らす人、患者の新しい捉え方に触れる経験を踏まえ、6年生CCstep3においては、実際に将来働く医師不足地域の医療機関での実習に参加する際に改めて低学年で学んだ手法をより実践的に用いる学生の学修進度に併せた教育である。2年生のプログラムの教材開発には地域のプライマリケアの実践家が参画して行う。これまで大学のカリキュラムとは関係無い課外の実習として病院見学を実施していたが、今回課外学習プログラムに位置付け、群馬大学と協働して、遠隔でのディスカッションによる事前学習、現地までバスで移動しての病院見学を合同で実施する。								
指導体制	埼玉医科大学医学教育センター医学部領域卒前医学教育部門地域医学推進室員である教員を中心に指導する。								
開始時期	令和5年5月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		10	10	10	10	10	10	60
	2年次		19	19	19	19	19	19	114
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次			15	15	19	19	19	87
	計	0	29	44	44	48	48	48	261

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	群馬大学								
教育プログラム・コース名	はじめて学ぶ地域医療								
取組む分野	総合診療、地域医療、救急医療、感染症、周産期医療、小児医療、癌診療、内科（高齢者医療等）								
対象者	医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）、保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）、共同教育学部生・理工学部生・情報学部生								
対象年次	1年次								
養成すべき人材像	地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材								
科目等詳細	<p>&lt;講座型科目&gt;</p> <p><b>地域医療学入門（選択、2単位、1年次）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療志向の動機付けを目的として入学直後の時期に新規に開講する。群馬大学と埼玉医科大学で新たに共同開発予定の動画教材を用いて、医師不足地域である群馬県と埼玉県の間地域を題材として、地域医療の現状について学習・討論を行う。医学科生だけでなく他学科の学生を交えた討論を行うことで医療だけでなく、工学や情報学、行政機能等、多様な視点からの考えを学生同士で共有することが可能となる。</li> <li>・各専門分野で実際に地域医療を行っている教員がオムニバス形式の講義を行う。特に、群馬県と埼玉県の地域医療で求められている総合診療、救急医療、感染症、周産期医療、小児医療、癌診療（緩和ケア含む）、高齢者医療等を中心的に扱う。これらの講義を録画し、埼玉医科大学のオンデマンド教材として活用する。</li> <li>・各分野の基礎的な医学的内容の他、両県の県境地域について住民の視点に立ち「地域を知る」学習・討論を行い、地域医療における課題を受講生自らが抽出し、主体的に学習する機会を設ける。また、地域医療への理解を深めるとともに、地域医療枠学生として地域医療に貢献するための動機付けを促すため、医療機関、保健行政等を含めた地域連携について学ぶ。</li> </ul>								
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<p><b>群馬大学と埼玉医科大学が新たに共同製作するオンデマンド教材では、医師不足が続く群馬県と埼玉県の県境地域に焦点をあて、地域医療を支える医師をはじめとする医療スタッフへのインタビュー動画や、それぞれの地域の様子を伝える動画を作成予定である。</b></p> <p><b>群馬大学が総合大学である強みを生かし、医学生だけではなく保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生も履修可能とすることで、入学後の早期から地域医療に関する多様な考えや意見を学ぶ機会を提供することができる。</b></p> <p><b>群馬県と埼玉県の県境地域について学び、必要な医療や地域連携について考えることで、地域医療枠学生として求められる役割を改めて理解するとともに、地域を支える人材となることの動機付けを図ることができる。</b>群馬大学では、地域医療枠学生に対する指導、支援として、<b>本学医学部附属病院、地域医療研究・教育センターと群馬県行政とが密に連携をとりながら、地域の医療ニーズを的確に把握する体制</b>がとられており、<b>授業の内容にもリアルタイムに反映させることが可能である。</b></p>								
指導体制	群馬大学大学院医学系研究科総合医療学講座の教員を科目責任者とし、医学系研究科の複数の専門分野における教員、本学医学部附属病院地域医療研究・教育センターの教員、及び埼玉医科大学医学教育センターの教員が講義を受け持ち指導する。								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		20	20	20	20	20	20	120
	2年次								0
	3年次								0
	4年次								0
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	20	20	20	20	20	20	120

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	群馬大学								
教育プログラム・コース名	県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）								
取組む分野	地域医療、地域連携、総合診療、プライマリケア、救急医療、在宅医療、多職種連携、社会福祉								
対象者	医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）								
対象年次	1年次～4年次								
養成すべき人材像	地域医療を通じて社会貢献する向上心及び自身の専門性を地域に還元する意欲を有し、医師不足が深刻化している埼玉・群馬県境の医療情勢に精通するジェネラリスト								
科目等詳細	<p>&lt;実習型科目&gt;  <b>地域医療集中演習（利根川プログラム）（選択、1単位、1年次～4年次）</b>  ・地域住民の医療に対するニーズを的確に把握し、地域医療が抱える課題を探究する素養を身につけるため、埼玉・群馬県境の医師不足地域の地理的状況や医療圏について早期から学び、医療圏の異なる県境地域の医療機関と連携し、臨地実習を含む集中授業を新規に開講する。  ・臨地実習前学習では、医師不足地域の地理的状況や医療圏、医療行政について埼玉医科大学学生とともに学び、意見交換を行う機会を設けるため、双方向リアルタイム型のオンライン授業を実施する。  ・臨地実習では、埼玉・群馬県境の医師不足地域を実際に訪れる。現地の施設や医療設備の見学に留まらず、地域医療の最前線で診療に従事する医師やメディカルスタッフと行動を共にすることで、多職種が連携して地域の医療を支えていることへの理解を深める。  ・地域医療枠学生として医師不足地域の医療に貢献する意識の涵養を目指し、既に数年来実施している「地域医療体験セミナーin群馬」「数日型地域医療体験セミナーin群馬」（いずれも課外学習、単位なし、1年次～6年次）と組み合わせて受講可能である。</p>								
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	<p>群馬大学医学部医学科では、従来、<b>群馬県、及び群馬県地域医療支援センターと連携</b>し、課外活動として、県内の<b>医師不足地域を中心とした地域医療の参加型臨地実習</b>として地域医療体験セミナーin群馬を複数の関連医療機関に協力を仰ぎ開催してきた。中でも、<b>群馬県西毛地域</b>の医療機関は、地域の中核病院として、<b>埼玉北部地域</b>からの多くの患者を受け入れている実績がある。また、当該地域での医療に従事する医師に求められる資質は、<b>総合診療、救急医療、がん診療、難病医療、在宅医療、周産期母子医療、小児医療など多岐にわたり、医療圏の異なる県境双方の地域医療を学ぶ機会として、新たな短期集中型臨地実習</b>を作成するものである。  受講者が受講しやすいよう、事前学習や臨地実習前学習では<b>オンデマンド型オンライン授業や映像教材を活用</b>する。また、<b>リアルタイム型オンライン授業</b>を実施することで<b>埼玉医科大学の地域枠学生とともに学修</b>することが可能となるため、それぞれの視点から意見交換を行うことによって、県境地域の医療について理解を深める機会を提供することができる。  臨地実習では、<b>大学、附属病院、群馬県地域医療支援センターの担当教員・職員が同行し、バスで移動</b>することで、<b>医師不足地域の立地や医療圏について実体験</b>できる。</p>								
指導体制	群馬大学大学院医学系研究科医学教育開発学講座の教員を科目責任者とし、群馬大学大学院医学系研究科医学教育開発学講座教員、同総合医療学講座教員、及び埼玉医科大学医学教育センターの教員が講義を受け持つ。臨地実習においては県境地域における関連医療機関の指導医・担当者も指導にあたる。								
開始時期	令和5年4月								
養成目標人数	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
	1年次		6	6	6	6	6	6	36
	2年次		4	4	4	4	4	4	24
	3年次			4	4	4	4	4	20
	4年次				2	2	2	2	10
	5年次								0
	6年次								0
	計	0	10	16	16	16	16	16	90

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。